

第4回小樽市健康増進計画評価会議 議事録

【要 旨】

開催日時 平成29年2月14日(火) 午後6時30分から午後7時30分

開催場所 小樽市保健所3階講堂

出席状況 ○委員

中川会長(学識経験者)

近藤委員(小樽市医師会)、市村委員(小樽市歯科医師会)、渡辺委員(小樽薬剤師会)、
山本委員(小樽青年会議所)、吹田委員(小樽民間保育協議会)、林委員(小樽私立幼稚園
連合会)、嶋田委員(小樽食生活改善協議会)

以上8名

○小樽市

保健所 健康増進課 柴田課長、中村主幹、宇田川主幹、山谷主幹

藤川主査、菊地主査、鎌田主査、山本主査、須摩主査

医療保険部 国保年金課 勝山課長、鳥居塚主査

以上11名

(欠席委員): 中村委員(小樽市商店街振興組合連合会)

新川委員(小樽市総連合町会)、

会議要旨

1 開会

2 報告

(1) 「第2次健康おたる21」中間評価アンケート調査報告書について

事務局から「中間評価調査報告書一式」、資料1「評価項目の目標の現状と課題、今後の方向性」
を用いて説明

※「第2次健康おたる21」中間評価アンケート調査報告書の訂正か所について

2 「第2次健康おたる21」中間評価アンケート調査報告書(高校生)

2ページ調査項目の

・回答者の属性4問 → 5問

・食生活の実態と栄養に関する知識について5問 → 11問

4 こども食育調査報告書

2ページ調査項目の

・回答者の属性5問 → 2問

・食生活の実態と栄養に関する知識について11問 → 4問

質疑応答について

[会 長] 今の報告について御意見、御質問はありますか。

[委 員] ・1 「第2次健康おたる21」中間評価アンケート調査報告書(20歳以上)について、若い人、30歳代の回収率が11%で低く、もっと回収率を上げるべきであると思う。

4ページの20代の男性の肥満は60%で高くなっていて、回答者が少ない影響もあるか

もしれない。

- ・30歳代に着目すると、5ページの習慣的に朝食を食べない人が多い。また、食事バランスガイドを知っているが、実際の食事には特に意識していない、という矛盾もみられる。
- ・11ページの30歳代の喫煙率は高い。やめたい人も多い。受動喫煙も多く、受動喫煙の場所として飲食店、会社という回答もあり、行政的な指導が必要と思う。
- ・16ページの運動についても30～40歳代で「運動をしてない」と回答する人が多い。意識の高い人は自ら運動ができるので、意識の低い人に対してジムや体育館などに誘導する方法などが必要だと思う。
- ・20、30、40歳代の回答を増やすためには、たとえばQRコードを作り、スマートフォンなどでホームページに移動してアンケートに回答してもらうなどの工夫も必要だと思う。
- ・資料1の1ページ①がんの75歳未満年齢調整死亡率は、策定時98.6で、中間評価時に96.4、目標値は88.2であった。課題と今後の方向性として、目標値に達していないとなっているが、目標を達しているのではないか。見方を教えてほしい。
- ・目標値は小樽市が設定したものか、国が設定したものか。

[事務局] ・目標値は国の基本計画から小樽市が設定したものである。

がんの75歳未満年齢調整死亡率は計画策定時が98.6、中間評価が96.4となり策定時より下がったものの、目標とする88.2に達しておらず、更なる取組が必要と評価している。

[委員] ・資料1の4ページ(5)次世代の健康づくりで①エイズについての正しい知識の正解率が低下していて、今後も関係機関と連携して取り組んでいくということだが、以前、市内中学校で保健所のエイズの健康教育を見学したことがあるが、現在も行っているのか。

・医師会では市民健康教室も定期的実施している。そのような機会などを活用して検診受診率向上に関してアピールした方がよいと思う。

[事務局] ・市内全校ではないが、要望のあった学校に保健師が出向きエイズなどの健康教育を実施している。

・アンケート調査の回答率を上げる工夫については、委員の御意見のような工夫が今後必要と考えてる。

[委員] ・検診の受診率に関連して、病院などで行っているワンコインでの検診などで受けた分については、今回の調査に含まれているのか。

[事務局] ・アンケート調査では、国保加入者の方、勤務先・加入する健保で検診機会のない方を対象とする小樽市のがん検診を受けた方、小樽市以外のがん検診を受けた方も含まれているが、評価項目の目標は国保加入者としている。

[委員] ・特定健診の受診率が低い。しかし医療にかかっている人も多く、医療の中で検診を行っていることで特定健診受診率が伸びないのではないかと考えている。受診率が低いと国からの助成金も少なくなると聞いている。

・目標値について全国、全道などとの比較があると分析もしやすいと思う。

・歯科と健康には関連があり、歯が残っていると認知症発症も少なくなり、医療費も2割安くなるとのデータもある。国保財政にも影響があるので、歯と健康の関連性について御理解いただきたい。

・食事と姿勢の関係も重要で、足底を(床に)つけないで食べる子供が多いと聞く。姿勢は歯並びにも影響する。

- [委員] ・本計画については幅が広く焦点がつかみづらい。小樽市は安心安全な暮らしを謳っているが、現状を見ると甚だ疑問である。健康で長生きできることも大切だが、いかに心地よく住むことができるかも大切である。
- ・子供を生みやすく育てやすいこと、安心して生める町にすることが何より基本になるのではないか。周産期の問題は重要だと思う。
 - ・子供を授かりたい人も多く妊活といわれる。小樽には専門の病院はなくほとんどが札幌の病院に相談している。これを目標に掲げてはどうか。
 - ・5歳児健診を法定化してほしいと思っている。発達障害の子供を早期に見つけることにつながるので、ここを重点にしてほしい。
- [事務局] ・周産期の問題は確かに市の重要な課題である。健康増進計画の中には含まれていないが、現在、市の担当部において検討されているので御理解いただきたい。
- [委員] ・今回の中間評価について、全体としてどう評価しているのか。
- [事務局] ・全体としては、まだまだ目標値を達成していない部分が多く、目標設定の修正を含め、検討が必要と考えている。
- [委員] ・平成34年度までには、さらに高齢化も進むと思うので、目標値を修正した方がよいと思う。
- ・食塩の摂取量も9.3gとの報告があったが、この状態では高血圧も多くなり、更なる対策が必要である。
- [委員] ・エイズに関する正解率が減少したとの報告があったが、正しい知識を何らかの方法で伝えていくことが必要だと思う。
- ・日頃の食生活改善協議会の活動の中でも、野菜摂取量、食塩摂取量について取り組んでいて、野菜摂取量は増えてきており、食塩摂取量も減ってきている。これからも取り組んでいきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局から説明（資料なし）。

- ・本評価会議要綱において委員の任期は2年となっており、今年の6月末で任期が終了する。再度各団体に委員の就任依頼をさせていただき、7月頃に新たな委員による評価会議を予定している。具体的には5月頃に就任依頼をする予定。
- ・次回の評価会議は7月を予定しており、先ほどの説明どおり、中間評価の結果を踏まえての後期計画案をお示し、その後は、御意見をいただき、最終計画策定となるので、7月以降は2回ほど会議を予定している。
- ・7月の評価会議には、具体的スケジュールをお示ししたい。

3 その他

なし

4 閉会